

イチゴ生産、熱い思い

美濃市で協同農業者が成果発表

「ベンチ栽培」収穫量アップ

農業に関する取り組みについて情報共有する協同農業普及事業成果発表会が、美濃市生櫛の県中濃総合庁舎で開かれ、イチゴの新規就農者らの取り組みが発表された。

(青山和史)

県は県全体で、昨年度からの3年間で千人の新規就農者の育成を目指している。その戦略や支援策を紹介しようとして、県中濃農林事務所が発表会を開催。農家や行政関係者ら約100人が出席した。発表会ではJ A全農岐阜で研修を受け、関市黒屋地区でイチゴを栽培する安井久人さん(50)らが講演。安井さ



イチゴ生産への思いを語る安井久人さん 〓美濃市生櫛、県中濃総合庁舎

んは約10¹⁰のビニールハウスで、ベンチの上で育てる「高説栽培」で年間4トのイチゴを生産し、4年目を迎える。農業に挑む理由やイチゴ生産の魅力について触れ、「イチゴは大きさにばらつきが少ない。生産効率を上げて高く売れるような努力が必要」と話した。